

動物の痕跡さがし(アニマル・トラッキング)

野生哺乳類の姿を直接観察することは、なかなか難しいものです。でも、足跡や糞、食痕などの生活痕跡(フィールドサイン)を観察することで、動物の種類や動物が何をしていましたのかなどを推察することができます(これをアニマル・トラッキングといいます)。

ねらい

アニマル・トラッキングを楽しく実施することができるようになる。

達成目標

- ・動物の痕跡がどんな所にあるか、言うことができるようになる。
- ・どのようにしたら動物の痕跡から動物の種類や動物の活動の様子を推察できるか説明できるようになる。

導入

動物の痕跡を一例示す(「推察」することのおもしろさを示す)。これから活動の手順について説明する。

本体

動物の痕跡をさがす。みつけた痕跡をスケッチし、何の痕跡か、図を使って検索してみる。それぞれが発見した痕跡を地図の上に書き込み、紹介しあう。

ふりかえり・わかちあい

アニマル・トラッキングの推察の仕方を知り、実践してみて気づいたこと、感じたことを紹介しあう。

実施のポイント

ワークシートの下半分に示したフィールドサインの検索図を使って、指導者が教えるのではなく、子どもたち自らが作業したり、考えたりできるように導きたい。

◆所要時間	60分
◆人 数	何人でも
◆関連教科等	総合的な学習の時間、理科
◆焦点を当てる能力	探し出す、観察する、記録する、判断する、想像する、推察する
◆準備するもの	ワークシート、クリップボード、筆記用具
◆安全のポイント	活動の範囲、危険な場所について活動前にきちんと伝える

まとめ

観察した情報から推察できるようになることで、どんなことがあるのか具体例をあげて紹介する(「直接観察できない生きものの生活を意識できる」など)。

評価の視点

動物の痕跡をみつけられたか。痕跡から自分の推察を言えたかどうか、などを大切にしたい。

発展・応用

雪上観察(スノーシューなどを利用)ができれば、アニマル・トラッキングはやりやすい。哺乳類以外の動物(昆虫など)についても同様にプログラムを実施することができる。

参考文献

「アニマルウォッキング 日本の野生動物」安間 茂樹 著

オリジナル／自然教育研究センター

動物の痕跡さがし(アニマル・トラッキング) 28

◆ 動物の食べあと・粪・足あとをさがして記録しましょう。

スケッチ

スケッチ

しゅるい よそう
種類の予想:

何をしていたのでしょうか?

種類の予想:

何をしていたのでしょうか?

わすれもの あしあと

地面にこされた動物の足あとをさがしてみましょう。

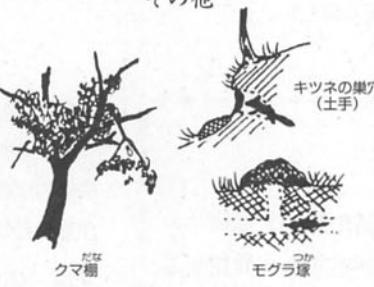
前	後
約15cm以上	約16cm ソキノワグマ
約10cm	約15cm ニホンザル
前も後ろも指は5つ	ハクビシン
約4-10cm未満	つめあと アメーリー アナグマ
指の跡の前後共ほぼ同じ	テ イタチ ニホンリス
前4つ後ろ5つ	ネズミ ヤマネ クマガ
前後共ほぼ同じ	(ネコ) タヌキ キツネ イヌ
前4つ後ろ4つ	クマの糞 モグラ塚 イノシシ シカ・カモシカ ひづめ 蹄のあと4つ
前後共ほぼ同じ つめなし	タヌキ キツネ イヌ

フィールドサイン図鑑

食べあと



その他



おとしもの ふん

動物たちも、体調や季節の食べものによってふんのようすが変わります。
下のイラストは目安です。



出典: 東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村「山ふるガイド 16 ~アニマルウォッキング~」を改編

年 月 日 名前